

「古川」テーマに



川沿いに捨てられたゴミを撮影する子ども記者たち

取材通し

地域に提案



Kyoto Bunkyo University
京都文教大学
文部科学省
地(知)の拠点
城陽市市民活動支援センター
(株)洛南タイムス社
No.3

古川をテーマにした「子ども記者クラブ」の連載最終回(第3回)をお届けします。今回、子ども記者たちは現場でのフィールドワークを行った後、川の清掃活動に取り組む「水辺で遊べる古川をつくる会」のメンバーの話を聞きました。取材を通して感じた課題をふまえて、グループで地域の人たちに投げかける提案・提起を考え、記事にまとめました。古川の水辺で子どもたちが撮影した生き物の写真とあわせて、ご覧ください。

アカミミガメ



古川を泳ぐ大きなコイ



スッポンか?



取材で見つけた水辺の生き物

③地域のみなさんと一緒に



今池小6年 高居由希記者



今池小6年 太田さくら記者



西城陽中1年 奥田菜月記者

きれいな古川をとりもどそう！

古川はたくさんのもので汚れています。ゴミや生活排水、工場からの汚水などで汚れています。

まず生活排水、工場からの汚水から見直していきましよう。洗剤の使い過ぎや油をそのまま流すことなどで川を汚すことになります。洗剤は少量に、油は布や紙でふきとって洗うことだけでも、汚水は減ります。生活の中では化学物質もたくさんつかいます。食器の洗いかたから生活の汚水を減らしましょう。

次はゴミのことです。古川には、たくさんゴミが流れています。おかしな

ミであったり、オートバイ

などの大きなゴミもたくさんあります。ゴミで川は汚くなります。小さなゴミだからといってポイ捨てすると、やがてたくさんゴミになります。「ポイ捨てしないでください」と周りの人にも声をかけていくことも大切です。

今、川が汚れて生き物も減ってきています。みなさんも、川が汚なくならないように気をつけたり、川をきれいにしていく活動に積極的に参加して、きれいな古川をとりもどしましょう。
【高居由希、太田さくら、奥田菜月】



水辺に立って川の中をのぞきこむ子ども記者